

# 名作の現場

新暦の5月に、事件は起きた。互いを帯で結んだ男女の遺体発見。「曾根崎心中」の現場を酒井順子さんが訪ね、花の盛りを命を散らした二人に思いを馳せる。



第26回 近松門左衛門

## 『曾根崎心中』

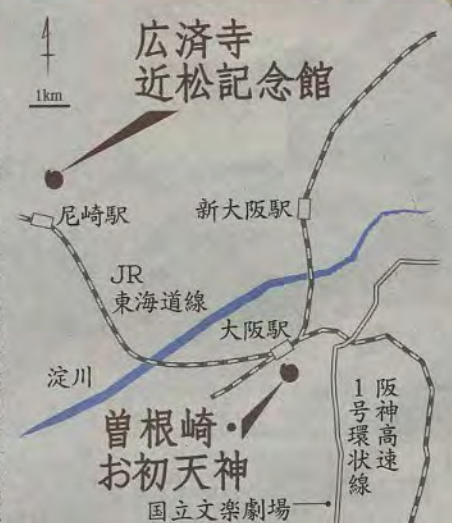
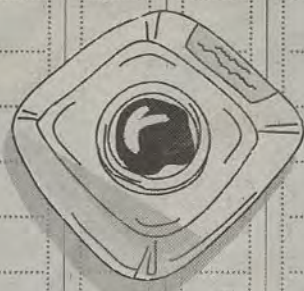
メモ

松尾芭蕉、井原西鶴と並び「元禄3大作家」と称される近松門左衛門。大坂を拠点に、『国性爺合戦』など浄瑠璃の名作を生んだ。「曾根崎心中」は実際の情死事件に取材し、人形浄瑠璃として初演された、近松50歳ごろの作。大当たりを取って「心中物」ブームを呼び、市井人の哀歓を描く「世話物」の流れを作った。若い男女の命をかけた恋は、時空を超えて共感を呼ぶ。心中の現場である大阪・曾根崎の神社は現在、外国人観光客も多い「恋人たちの聖地」となっている。

案内人

## 酒井順子

さかい・じゅんこ  
エッセイスト。1966年生まれ、立教大卒。自嘲を含め、子のない未婚女性を「負け犬」と定義した『負け犬の遠吠え』で講談社エッセイ賞。古典芸能にも関心が深く、著書に『女を観る歌舞伎』（文春文庫）などがある。



### 最

近、「心中」のニュースをあまり見ません。かつては、ネットで知り合った他人同士が練炭で……といった事件が続いた時もありました。心中はどうか「流行ること」があるようで、印象的な心中事件があると、後を追う人が増えるのです。

### 近

松記念館は、地元の方々の手によって管理されています。36年から「近松祭」が開かれ、また地元の小学校には浄瑠璃クラブがあるなど、この地には近松愛が溢れているのです。

江戸時代にも、心中ブームは、元禄16（1703）年に大坂・曾根崎の天神森で、醤油屋の手代と遊女が心中した事件。近松門左衛門がすぐさまその事件を人形浄瑠璃に仕立て、竹本座において上演したのです。それは当時の演劇界においては、画期的な出来事でした。歌舞伎でも人形浄瑠璃でも、歴史上の出来事を題材にした「時代物」ばかりが上演されていた中で、近松は初めて

自分の知り合いかもしれない二人の心中事件を舞台で見た観客はさぞや興奮したと思われ、『曾根崎心中』は大ヒット。「心中物」も、心中という行為も流行し、とうとう幕府は、心中物の上演や出版を禁止します。さらには心中行為自体も禁止して、心中ブームに終止符がかけて、長い間上演されずにいた『曾根崎心中』ですが、昭和半ばの1953年に歌舞伎で復活。さらには文楽でも復活し、今では人気の演目となっています。

かつて田園地帯だったという久々知。近松にとのかもしれない。記念館には近松が使っていたという机も展示されています。隣接する廣濟寺は、再建時に近松が発起人となった寺。近松の墓もあり（大阪谷町にも墓は存在する）、私は「日本のシェイクスピア」に、そっと手をあわせたのでした。大阪に戻って向かったのは、地下鉄日本橋駅の

ほと近くにある、国立文楽劇場です。ちょうどこの月は『曾根崎心中』が上演中。生玉社前の段、天満屋の段ときて、いよいよ最後は天神森の段。

# この世の名残 森の

### こ

れを見た江戸時代の人、確かに心中に對して、うっとりとした気分を抱いたかも……と思いつつ劇場を出て夜のミナミの繁華街を歩けば、お初や徳兵衛と同時代の若者がそぞろ歩いて

いますが、彼らは死のこの世に夢にも考えてはいないことでしょう。翌日は、曾根崎へ。曾根崎は大阪駅に近い繁華街ですが、かつては森や沼地が広がる郊外の地でした。次第に埋め立てられ、同駅の開業とともに栄え

ていったのです。曾根崎にある露天神社は、『曾根崎心中』の初演からほとんどなくして、「お初天神」と呼ばれるようになったのだそう。今では、恋の成就を願う女性たちに人気の神社です。参道入り口には大きな

お初の顔が描かれ、「曾根崎お初天神通り」と記されています。境内には、恋愛祈願、美人祈願の絵馬がたくさん。恋に一途であったお初の思いは、現代女性の心を捉えているようです。吉澤克規宮司に古い地



心中の現場・露天神社を訪れた酒井順子さん。事件当時も八重桜が見ごろだったのか、大阪市北区で、猪飼健史撮影



近松門左衛門が使ったという机。記念館には過去帳や書状も。兵庫県尼崎市で、望月亮一撮影

「この世の名残、夜も恋仲の二人ですが、徳兵衛は金銭トラブルを抱